

組織目標評価報告書（令和3年度）

部局名： **研究推進機構**

部局長名： **那須 保友**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p>	<p style="text-align: center;">目標に関連する年度計画の番号</p> <p>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p>
<p>地域社会における本学のプレゼンスを向上させるため、SDGsサイエンスカフェ等の各種イベントについて、内容等の改善を図ったうえで実施する。</p>	<p>49-1</p> <p>7月に「岡大SDGsサイエンスカフェ」を「新型コロナウイルス感染症のこれまでとこれから」(学術研究院医歯薬学域(疫学・衛生学)教授 頼藤 貴志)、「ワクチン接種後のコロナ感染予防と心身の健康の維持」(学術研究院医歯薬学域(公衆衛生学)教授 神田 秀幸)の2テーマで開催し、約200名が参加した。また、講演の様相について録画し、学内限定でのオンデマンド閲覧を可能とした。</p> <p>また、知財フォーラムは、12月に「地域発ヒット商品の『生み出し方』と『伝え方』」(サイバー大学 IT 総合学部 北村 森教授)、「知的財産権の歴史 ～ガリレオからAIへ～」(INPIT 岡山県知財総合支援窓口 青木 高志 氏・美甘 ゆき 氏)の2テーマで開催し、約70名が参加した。2月に「最近の企業知財マネジメントの実際」(株式会社クラレIPマネジメントセンター 中川 直 センター長)をテーマとして開催した。加えて、さんさんコンソ(中国地域産学官連携コンソーシアム)と共催で、学生・一般市民を対象に、「特許(発明)への理解を進めるための知財教育セミナー」を4回開催した。</p> <p>さらに、3月には地域の企業経営者等を対象に、事業承継について大学教員とともに考える「第1回おかのやまの事業承継を考えるワークショップ」を新たに開催し、約60名が参加した。</p> <p>これらにより、地域社会における本学のプレゼンス向上を図った。</p>
<p>④管理運営領域</p>	<p style="text-align: center;">目標に関連する年度計画の番号</p> <p>管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p>
<p>イノベーション創出機能を担う組織が複数存在するため、イノベーション創出機能を集約し、戦略的に活動を行うため、イノベーション・マネジメント・コア(IMaC)を創設する。 構成員の企画・マネジメント能力の向上のため、教職員、コーディネーター等の研修・セミナーへの派遣等を行い、イノベーション創出に資する人材の育成を図る。</p>	<p>86-2 93-1</p> <p>研究推進機構は、「イノベーション・マネジメント・コア」(IMaC)を創設し、学術研究・産学連携及び橋渡し支援機能を集約したイノベーション創出を全学的に推進する体制を構築した。</p> <p>上記IMaCにおいて、教職協働によるアジャイル型のプロジェクト・チームを編成し、包括連携協定に基づくプロジェクトをマネジメントし、2月に備前市との包括連携協定を成立させるなど、イノベーション創出を推進した。</p> <p>ERM構築支援ワークショップを実施し、構成員に受講させるとともに、DRII ABCP(事業継続プロフェッショナル)資格取得講座を開催し、昨年度とあわせ、合計6名にABCP資格を取得させた。また、「国立大学法人産学連携センター長等会議」等各種会議・セミナー等に構成員を派遣するなど、イノベーション創出に資する人材の育成を図った。</p> <p>また、教職協働により、本学の発展に資する研究・産学共創施策の検討・立案・実施を精力的に行い、内閣府「国立大学イノベーション創出環境強化事業」の採択につなげたことなどが評価され、研究推進機構及び研究協力部の若手職員が第1回金光奨励賞を受賞した。</p>
<p>⑤センター・機構等業務</p>	<p style="text-align: center;">目標に関連する年度計画の番号</p> <p>センター・機構等業務における目標の達成状況</p>
<p>世界に伍するSDGs研究推進大学を目指し、資金と知の好循環によるイノベーション・エコシステムを構築するため、以下を実施する。 ・本学の強み分野を中心に国際研究拠点や次世代研究拠点の形成を図る。 ・教員一人当たりの科研費獲得額増加等による科研費の獲得拡大を図る。 ・共同・受託研究契約件数・金額等を増加させるための施策を立案・実施し、外部資金獲得額の増加を図る。 ・優れた若手研究者の活躍を支援するため、経費的・人的優遇措置の実施等により、対象者に自由な発想で挑戦的研究に取り組める魅力的な研究環境を整備する。 ・大学発ベンチャーの数を増加させるため、支援策を立案・実施し、大学発ベンチャー件数の増加を図る。 ・大学で一元管理する研究スペースの有効活用を図るため、新たな活用策を立案・実施する。</p>	<p>3-2 27-1 31-1 32-1 33-1 34-1 35-1 36-1 37-1 38-1 39-1 40-1 41-1 43-1 48-1 79-1 79-3 81-1</p> <p>・戦略的に絞り込んだ3領域15分野の重点支援分野における新たな研究プロジェクトの発掘育成を行う学内公募事業「次世代研究拠点形成支援事業」及び海外の優れた研究者を招へいし、国際共同研究を促進する「RECTORプログラム」を実施した。「次世代研究拠点形成支援事業」では、支援実施前の4年間と支援期間の4年間を比較し、競争的外部資金の獲得額が85%増加した。「RECTORプログラム」においては支援前の3年間と支援期間の3年間を比較して国際共著論文数86%増、Top10%論文数157%増、外部資金獲得額45%増となり、いずれも顕著な成果を挙げた。また、両者とも、支援した金額より外部資金獲得額の増加額が大きくなっている。</p> <p>・科研費の書き方講習会や不採択で評価結果がAの者に対して研究費を支援する「科研費セーフティネット事業」を実施し、令和3年度は昨年度比で採択件数を41件、獲得金額を約320,000千円増加させた。</p> <p>・「岡山県 企業と大学との共同研究センター」と連携した共創コンソーシアムの運営や包括連携協定締結機関との「組織」対「組織」のマッチング、展示会や新規に作成した「岡大シーズ集」サイトでの周知などの施策を実施し、共同・受託研究契約件数・金額をそれぞれ前年比29件、約300,000千円増加させた。</p> <p>・令和2年度の文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」の採択を受け、「岡山大学科学技術イノベーション創出フェローシップ(OUフェローシップ)」を創設し、実施した。さらに、令和3年9月、JST「次世代研究者挑戦的研究プログラム」の採択を受け「OUフェローシップ(タイプB)」を新規に創設し、既存のOUフェローシップを「OUフェローシップ(タイプA)」として実施した。OUフェローシップでは、生活費相当額及び研究費の支給・配分、研究力向上とキャリアパスの支援に向けた様々な取組の提供により、41名の博士後期課程・博士課程学生を支援した。</p> <p>・教職協働・部局横断型でベンチャーを支援するプロジェクトチームを編成し、全学的なベンチャー支援体制を構築し、アントレプレナーシップ意識醸成イベントや大学発ベンチャーを資金的にサポートする「岡山大学発ベンチャー起業支援事業」、「大学発ベンチャー称号付与制度」を実施した。その結果、上記起業支援事業の支援を受けた2社を含め5社が新たに起業した。</p> <p>・研究活力の増進を図り重点領域研究を推進するため、新技術研究センター、産学官融合センターについて、整備・補修の上、規程を改正し、オープンラボ化し、大学で一元管理する研究スペースを4860平方メートルとし、第3期中期目標期間末時点の3,194平方メートルから目標(2割)を大幅に上回る約5割の増加を達成した。また、令和3年度から、オープンラボの大学発ベンチャー企業への優遇貸与を可能とし、実際に入居させることで、研究の社会実装を推進した。</p>